

北海道民放クラブ会長

新蔵 博雅



新しい年が始まりました。傘寿も近くなって、また馬齢を重ねることに「めでたさも中くらいなりおらが春」(小林一茶)の句が胸に迫りますが、そうは言っても、こうして生かされていることはありがたい。ここは素直に喜びましょう。会報をご覧の皆さんにとりまして、2026年が穏やかで、良いこと、楽しいことがありますようにと心から祈ります。

私にとって最大の関心事は、やはり健康です。行事や飲み会の予定を手帳やカレンダーに書き入れておけば、日常生活にメリハリがついて何となく心が躍ります。いろんな人とお付き合いついて会話ができれば、脳が活性化するそうですし、きつと健康に役立つ情報も得られることでしょう。だから今年も民放クラブなんですって!!

東北民放クラブ会長

水上 健治



あけましておめでとうございます。稀にみる猛暑に見舞われた昨年の夏、皆さんは如何お過ごしだったでしょうか。

小生、一昨年、肺炎を患い治療に専念していたため、暑さには閉口しました。体力の衰えは周囲に迷惑を及ぼすと改めて思い、一念発起し、真夏の盛りの日中、ゆつくりではありますすがウォーキングを1時間ほど行いました。汗びっしょり、呼吸は苦しいながら次第に楽になり、爽快感すら覚えるようになっていきました。

10月中旬、1年半ぶりの町内のゴルフ大会に参加し、周囲の危惧をよそに18ホールを完歩出来ました。病に落ち込むことなく立ち向かえば何とかなると思いい、88歳の米寿を迎えるにあたって静かにお屠蘇で一人、祝っています。

日本・関東民放クラブ理事長

榎本 恒幸



明けましておめでとうございます。そして日本民放クラブ会報はこの160号で創刊40周年を迎えます。おめでとうございます。

昨年この頁で民放クラブ会員について触れましたが、今年は賛助会員について書いてみたいと思います。

2025年度賛助会員の新加入は3社。南日本放送、JCOM BS、ジェイ・スポーツに入会していただきました。この3社の社員の方々には、将来、民放クラブの会員になっていただきたいと思っています。

これまで新しい賛助会社の方々へのケアが足りなかったとの反省が私自身にはあります。これからは積極的に同好会活動にお誘いしようと思っています。

皆様方にもご協力の程、よろしくお願い致します。

北陸民放クラブ・石川会長

永山 徹



あけましておめでとうございます。2024年元日の能登半島地震から満2年、国内外とも世界は緊迫した状況が続いていますが、穏やかな一年になる事を願うばかりです。

さて、北陸民放クラブでは富山、石川、福井の3クラブ交流を、これまでも増して盛んにしていきたいと思っています。昨年11月、3クラブ交流能登復興支援企画の一つとして七尾市を訪問。大きな地震被害に遭った一本杉通りをガイドさんの説明付きで視察し、その後、懇親ランチ会を催しました。

その他、富山の「酒とグルメの会」新設、福井は「会員によるブルーベリー収穫」、石川は同好会会員の作品展を実施しました。また、会員の少ない局のOB・OGにこれまで以上に声を掛け、会員増に繋がりたいと思っています。

東海民放クラブ会長

山中 強司



新しい年が始まりました。今年もよろしく願ひします。

昨年を振り返ると、2期目に入ったトランプ政権の話題が、連日メディアを賑わしていました。また、多くの国で既存与党が敗退、右傾化が進み、多国間協力が難しい状況に。国内でも同様の状況下、憲政史上初の女性総理が誕生しました。令和の米騒動と揶揄された米不足と価格の高騰、東日本で頻発した熊被害等も思い出されてきます。そんな中、特に身に応えたのはあの暑さに苛まれた夏。「熱中症警戒情報」が連日発せられるなど、猛暑日が長く続きました。夏が前後に延び、春や秋が短くなってきたのではと。米不足や熊騒動もこうした気候変動と無関係ではないでしょう。

「四季がある」。そして、穏やかな日々がこの先も続くよう、願っております。

関西民放クラブ会長

渡辺 克信



皆さまには元気に新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年もいろいろと良い年になるような予感がいたします。

昨年、関西ではご存知のように「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした「大阪・関西万博」が開催され、猛暑日続きの毎日でしたが、開幕直後まであれほどの批判や不評を買ったとは思えないほどの大盛況のうちに閉幕いたしました。

ところで、今年は民放の中では早くも開局75周年を迎える局が数局あります。あの当時、我々の大先輩は、きつと放送界の輝く未来を思い描いておられたと思います。

さて、万博は終わりましたが引き続きこれからも、万博のテーマにあやかっ心と体の健康を大切に、無理をせず、ふれあいと笑顔を忘れず、心豊かに、輝いた日々を皆さまと共に楽しんで参りたいと思います。

中国民放クラブ会長

安東 善博



2つの初夢を見たいーと年を越した。

1つは、プーチンさんとネタニヤフさんを宇宙旅行に招待して、月から地球を見てもらうことだ。アポロ15号の飛行士アルフレッド・ウォーデン氏は「月を調査するために来たわけではない。ここから振り向いて、私たちの故郷・地球を見つめるために来たのだ」と言っている。「青くて「国境のない」地球を守りたいと思う。儚い夢か!?

こちらの実現可能性はある。中国民放クラブ会員数は、320人余りとなった。ある県支部の風土に合ったサークル活動を展開してもらっている。関連した会社やフリーの人の参加が増えている。力まず、時代にあった活動を探りたい。

四国民放クラブ会長

笹岡 高志



恭賀新年

土佐弁の「ほいたらね」は親しい人に伝える「それじゃあまたね」の挨拶です。漫画家・やなせたかしと妻・暢をモデルにした物語『あんぱん』は、戦後80年の日本に滋味あふれる反戦のメッセージを送りました。約40年前、夏目雅子が演じた鬼龍院花子の「なめたらいかんぜよ」が一世を風靡しました。土佐弁でも凄みを効かせた男言葉です。一方、「ほいたらね」はどちらかといえば女言葉で、春雨の如く温かな気分を朝の全国に拡げてくれたように感じました。

さて、四国の状況ですが、高知と香川で昨春は3名、秋には8名の入会があり、80人台を回復することができました。他地区の事例に学びつつ、勢いを愛媛と徳島に繋げようと思っています。

「ほいたらね」と明るく再会を期して別れる。楽しい出会いの積み重ねを目指して頑張ります。新年も宜しくお願い申し上げます。

九州民放クラブ会長

今村 雄一



明けましておめでとうございます。今年も九州地区は福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、5クラブが独立して運営して参ります。

その全体のまとめ役として持ち回りで代表幹事を担当することになっており、昨年からは2年間は熊本が務めております。そして、年1回、5クラブの代表が参集し、代表者会議を開いて情報交換しています。

大分・宮崎は安定した運営と色々な活動が活発で目標となります。福岡・熊本は高齢化と会員減に悩み、会員資格拡大で加入増を図るも苦戦している状況です。

そういった中、鹿児島では南日本放送が加入するという嬉しい出来事がありました。会員増が大いに期待されると思います。

これからも『楽しく集い、楽しい時を過ごす』をモットーに、参加意欲を高め、魅力あるクラブになるよう努力して参ります。